

業務部速報



No. 39

発行 25. 9. 11

JR東労組 業務部

申4号「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」に関する申し入れ 9月10日 団体交渉を行う！①

【共通】

●組合

■会社

1. 安全第一を徹底し、コンプライアンスの確保と社員間差別がない安心して働ける職場の構築とJR東日本グループの信頼回復に向けて取り組むこと。

●JR東日本グループ理念から「安全」の文字が消えたことに対しての問題意識は払しょくできない！グループ理念に「安全」の文字を入れて変更するべきだ！

■安全は経営のトッププライオリティであることは変わらない。社長メッセージなどに「究極の安全」を入れている。お客さま目線において、安全の先にある安心として示している。むしろ安全を重くとらえ、その先の安心をつくっていくということである。その上で行動指針の一番目に「究極の安全」を記載している。組合の主張は否定しないが、このような理念、コンセプトで示している。

「安全」がグループ理念から消えた経営姿勢は認められない！JR東労組は安全第一の会社を職場からつくり出していきます！

●「勇翔2034」を達成するための「組織再編」「人事・賃金制度の改正」であり、安全を第一とするべきだ。

■その通りだ。

●東中野駅事故以降に労使確認し合い労働協約とした「事故撲滅をめざして（1992.12.5）」「安全宣言-事故撲滅への挑戦（1994.11.8）」「安全宣言-「安全計画21」のスタートにあたって（1999.6.1）」の3つの安全宣言をこれからも遵守すること。そして、現在においても労使の共通認識とするべきだ！安全に対して労働組合が口を出すなどの経営姿勢をとるべきではない！

●JR東労組と会社で築き上げた安全第一の企業風土・企業文化をこれからも構築していくべきだ！

■労使議論を経て確認したものであり、これまでの議論を否定するものではない。労使議論で安全がはく奪されるような考えは一切ない。経営協議会や団体交渉などの労使協議はこれからも行う。

■安全はトッププライオリティであり、企業文化・風土をつくり出すという意味においてはまったく否定しない。

「組織再編」「人事・賃金制度の改正」においても、安全が第一であることを確認！この間、労使で締結した安全に関する労働協約をこれからも遵守することを確認！

●新幹線の度重なるトラブル、JR東日本企画での水増し請求、「四季島」乗務員の飲酒など、JR東日本グループの世間からの信頼は地に落ちているので改善するべきだ！

●各現場では「新幹線は今日は大丈夫か」と聞かれる状況の中で、どれだけ謝罪して苦労していると思っているのか！

■「勇翔2034」で“すべての事業の基盤となる「信頼」”であると記載した。起きている事象の質や中身は違うが、グループとして安心と感動を生み出すための基盤は「信頼」であると訴えている。

■第一線社員に負担がかかっていることは認識している。「働きがい」「働きやすさ」向上のため、エンゲージメント調査やストレスチェックを行い、数値が低下することが理想である。

●不当労働行為、ハラスメント、労働組合の加入有無での差別がない、安心して働ける職場を構築することが必須だ！

■「働きがい」「働きやすさ」が向上し、会社が成長するためには社員の成長が基盤である。組合加入の有無での差別はこれまでも行っていないし、これからは行わない。

安心して働ける環境の構築が重要！社員間差別は行わないことを確認！

●労使間の取扱いの変更が想定されるが、不利益変更はあってはならない。

■協約の改訂はこの間実施しているが、不利益変更しないことが大前提である。

労使間の取扱いに関して、不利益変更をしないことを確認！ ②へ続く